

5. 今月のトピックス 「ブドウべと病について」

◆被害の様子と本病の特徴◆

本病は重要病害のひとつで、主に葉、花穂（果房）に発生します。三重県では 5～10 月頃まで発生します。

葉では、淡黄～黄色の病斑が現れ、やがて葉裏に白色のカビが生えます（写真 1）。罹病した若葉や激しく発病した成葉は早期落葉します。



写真 1. 若葉の病徴(左:葉表、右:葉裏)

花穂では、発生が早い年には開花前から発病し、ごく幼果期に発病すると肥大が停止し、表面に白色のカビを生じます（写真 2）。果実径が 2cm 程度になるとカビの発生は見られず、灰白～淡黄色の日焼け症状になります。



写真 2. 果実の病徴

病原菌は主に落葉の病斑組織内で越冬し、伝染源となります。また、落葉が腐敗した後も土中で 2 年は生存します。病原菌は風で飛散し、わずかの水分があれば感染するので、一旦発生すると短

期間で被害が広がります。また、品種による耐病性の差が明らかで、デラウェアは強く、マスカット系などの欧州種は弱く、巨峰や安芸クイーンはその中間です。

◆発生しやすい条件と本年の状況◆

本病は 22～24℃の多湿条件で発生しやすく、梅雨時期がもっとも盛んに感染が繰り返されます。昨年は梅雨入りが早く、梅雨明け後も降雨が多かったため、8 月以降多発しました（図）。本年は越冬した伝染源が多いと考えられます。昨年多発した圃場では、梅雨時期以降の発生に注意してください。

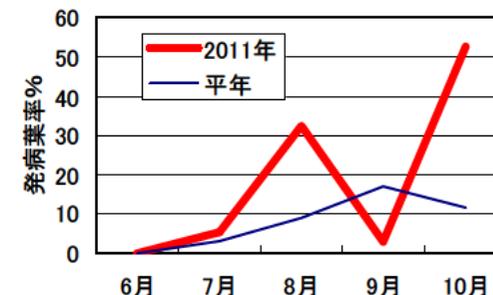


図. 巡回調査圃場におけるブドウべと病発病率の推移
8圃場、各圃場50葉調査の平均。各月上旬に調査。
平年値は過去10年(2001～2010年)の平均。

◆防除のポイントと注意事項◆

- 1) **圃場衛生**：主に被害葉の組織内で越冬して伝染源となります。落葉は園外に持ち出して適切に処分してください。
- 2) **栽培管理**：柔らかい組織が感染しやすいので、窒素質肥料の多用を避けたり、排水を良くしたりして、軟弱な生育をさせないようにしましょう。
- 3) **薬剤防除**：防除時期は 5 月～10 月の長期間にわたります。予防散布に重点をおき、葉裏に十分薬液が付着するよう、ていねいに散布してください。幼果期～袋かけ前は果粉の溶脱、果面の汚れ等の薬害に注意が必要です。

(写真提供：農業研究所伊賀農業研究室 後藤雅之氏)